

経営比較分析表（平成29年度決算）

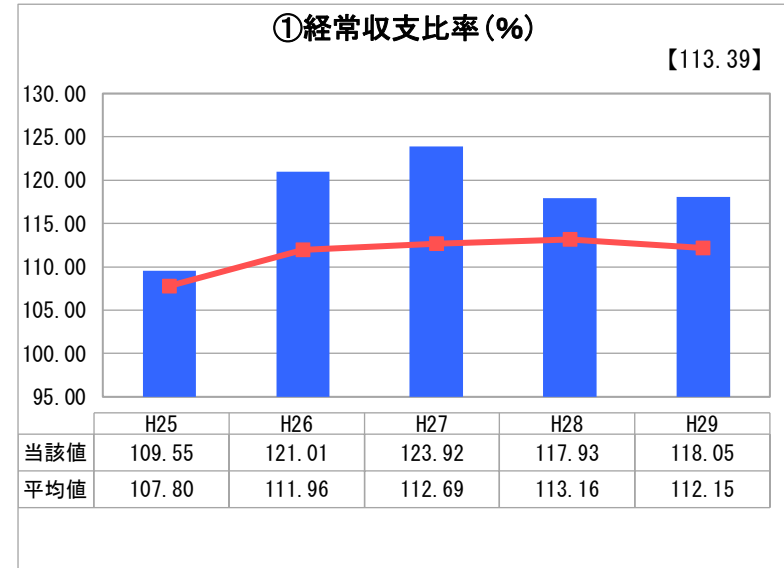
福井県 越前市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	77.01	97.84	1,879	

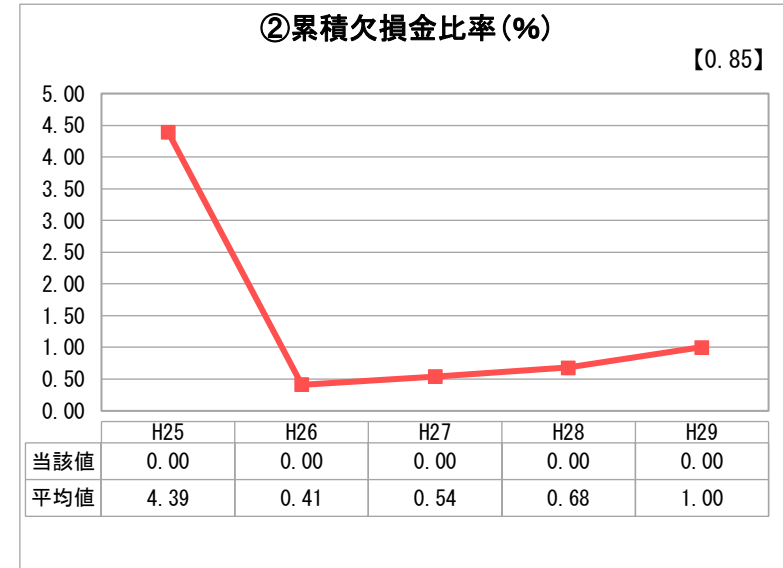
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
83,061	230.70	360.04
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
81,325	94.40	861.49

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

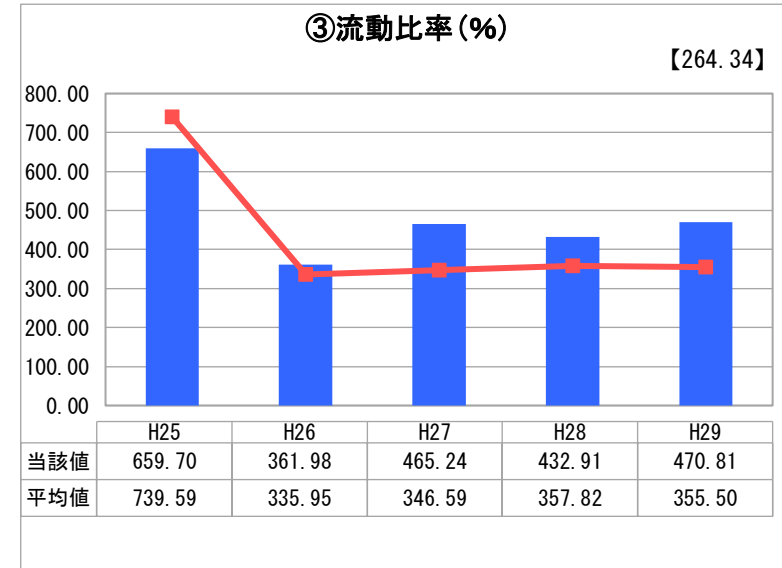
1. 経営の健全性・効率性



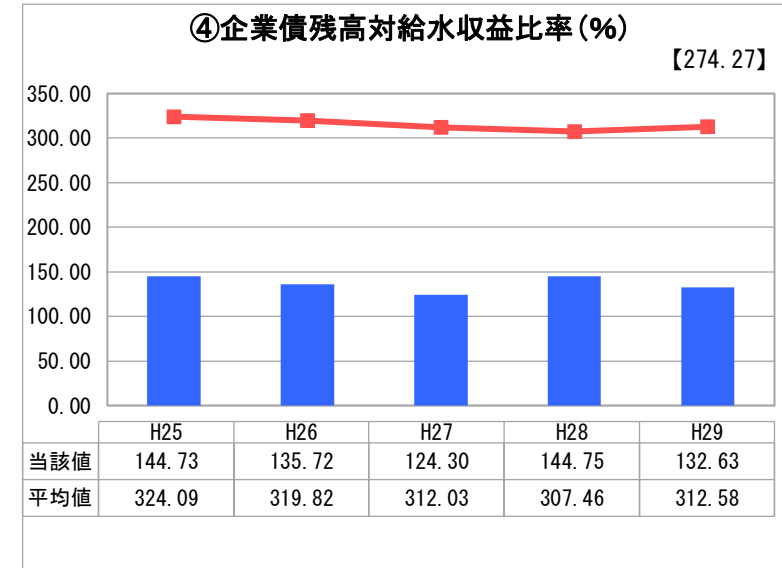
「経常損益」



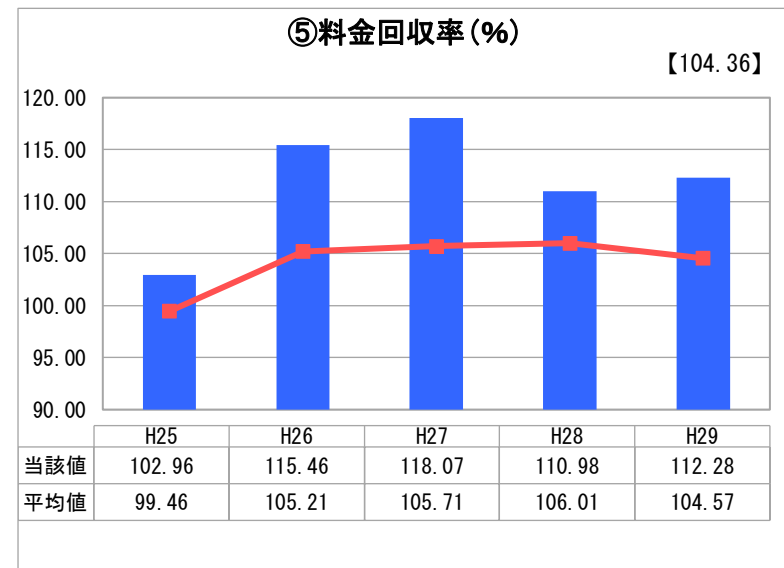
「累積欠損」



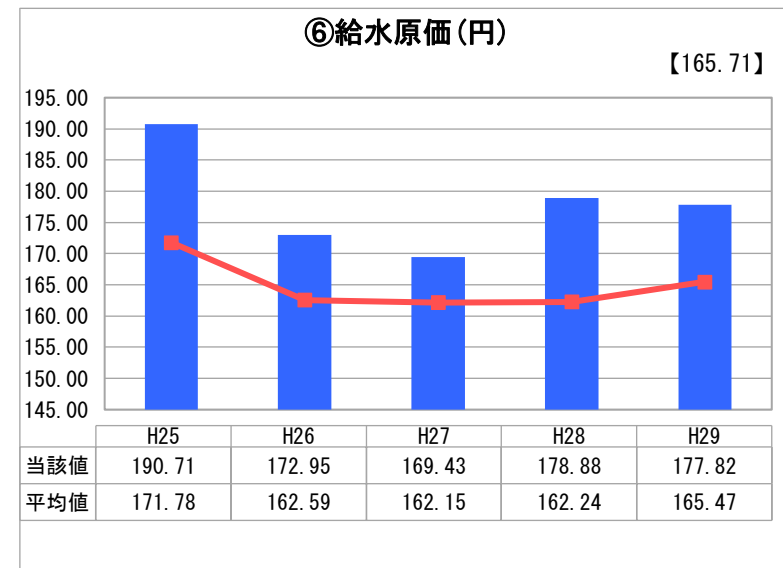
「支払能力」



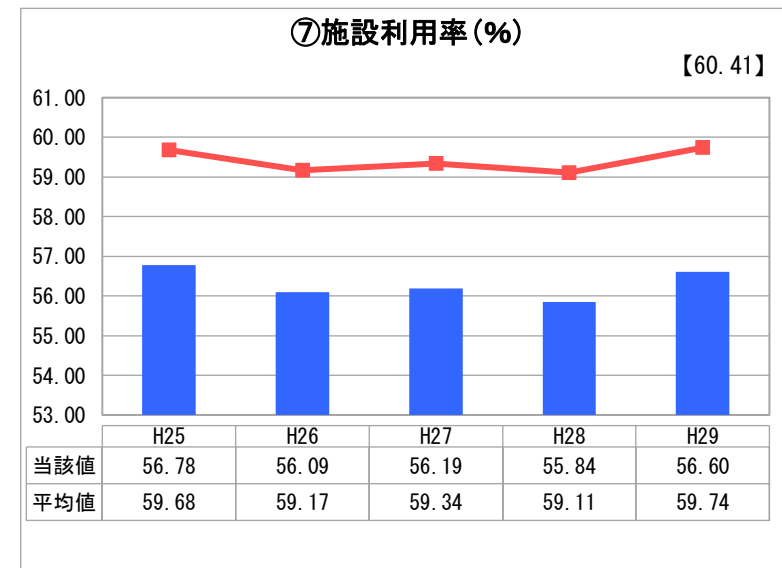
「債務残高」



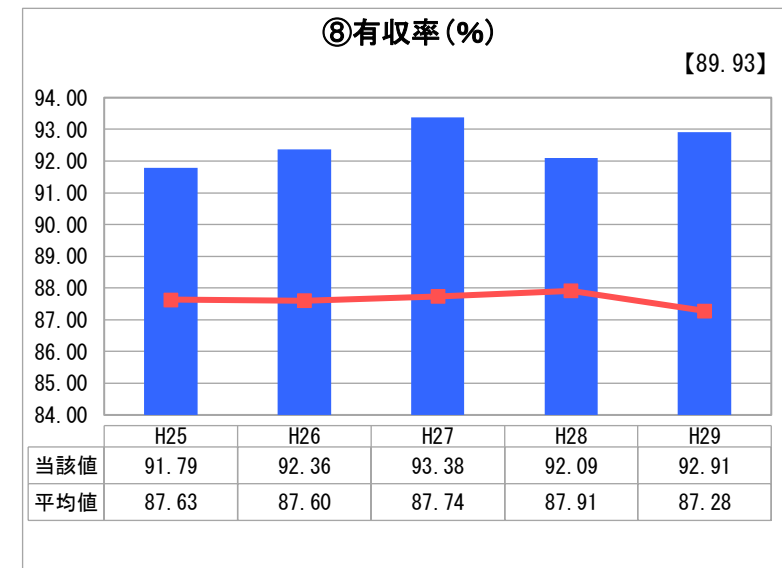
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

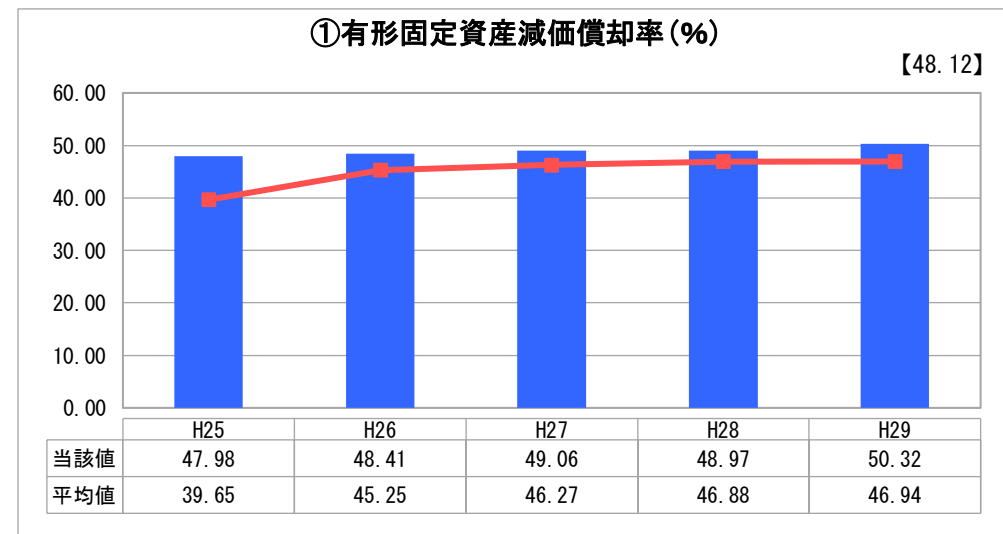


「施設の効率性」

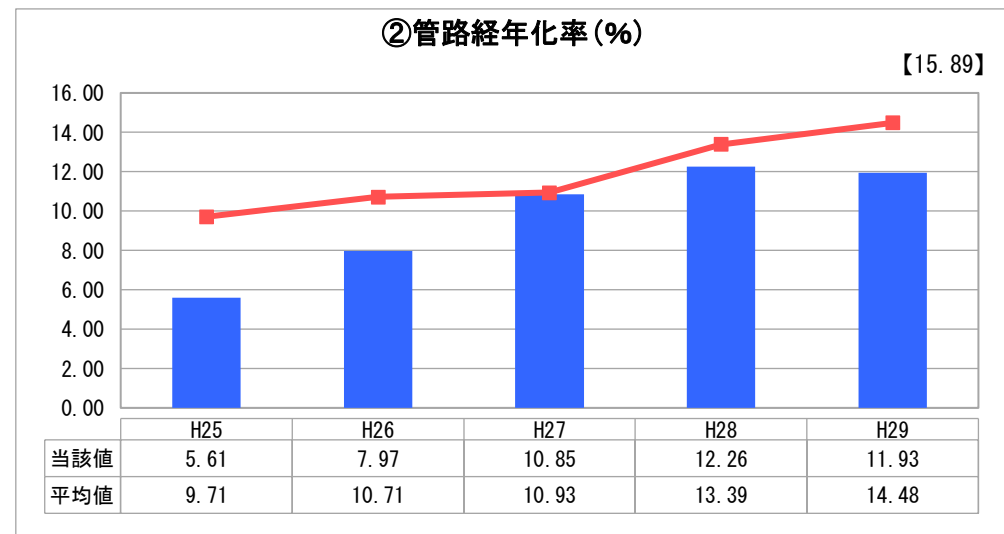


「供給した配水量の効率性」

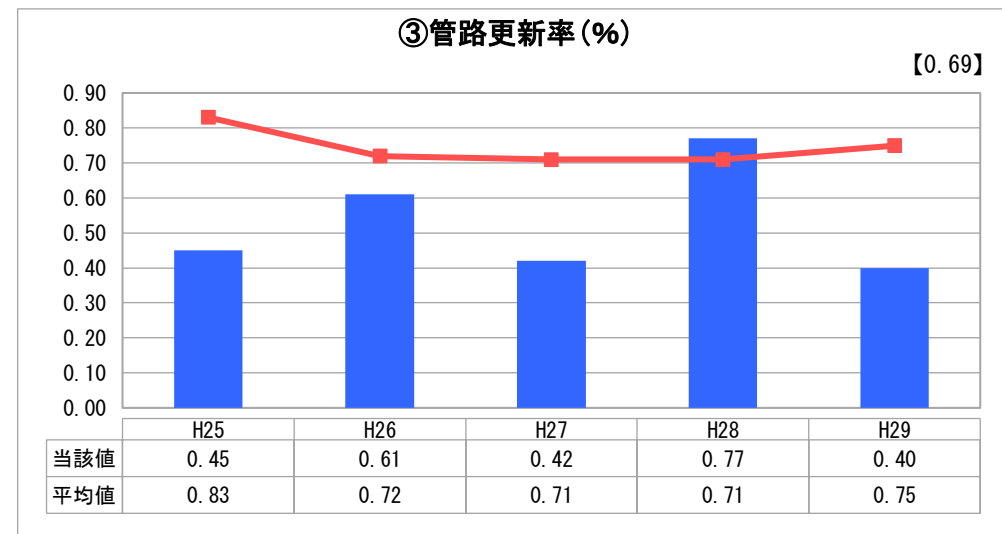
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

近年、人口減少や節水器具の普及等の要因により、水需要・給水収益が減少傾向にある中、本市水道事業では浄水場維持管理業務の包括的民間委託の実施や職員の減数等、経費削減に努め、さらに、高金利企業債の繰上償還と料金改定を実施することで経営健全化に努めてきた。その結果、平成25年度には累積赤字を解消し、②累積欠損金比率、④企業債残高対給水収益比率が改善された。①経常収支比率についても改善されているが、H28以降は一部企業の使用量の減によりH27に比べ減少している。

③流動比率と⑤料金回収率、⑥給水原価については、新会計制度の適用により大きく変動した。特に③流動比率については、企業債元金償還額が資本金から流動負債に移ったことで落ち込んだが、依然として高い支払能力を有している。⑤料金回収率、⑥給水原価については、長期前受金戻入分が経常費用から差し引かれることとなり、H28より改善している。

⑦施設利用率については、下落傾向であるが、大雪による配水量増により若干向上した。

⑧有収率については、これまでの継続的な漏水調査実施により高い水準を維持できていると考えられるため、今後も定期的に漏水調査を実施し、高い有収率の維持と更なる向上に努める。

2. 老朽化の状況について

老朽化の指標となる、①有形固定資産減価償却率、②管路経年化率、③管路更新率をみると、ほぼ全国平均といえる。しかし、法定耐用年数に近い資産は増加傾向であり、計画的な更新が必要となる。また、平成27年度に実施したアセットマネジメントにより既存施設等の更新費が約600億と試算され、現状の財源では将来の更新が非常に厳しいことが明らかとなった。

そのため、本市では平成28年度に、更新費用の平準化や更新の重要度・緊急度等を考慮した整備の基本方針や年次計画等を定めた。施設の長寿命化や更新費用の削減を図るとともに、将来にわたって財源確保に取り組み、水道施設の健全性の維持に努める。

全体総括

本市の水道事業は、経費削減や料金改定により累積赤字を解消し、現在は安定的な事業を運営維持している。今後は、水道料金の収率向上・未納整理の強化、包括委託などの民間委託を進め、一層の経費削減に取り組むとともに、中長期的視点に立って、更なる計画的、効率的な老朽化対策・財政運営に努め、健全経営の維持に努める。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。